

社報 御霊本宮

第90号

発行者

御霊神社本宮
宮司 藤井利夫
五條市霊安寺町
0747-23-0178

発行日

令和3年
12月1日

師走の意味

十二月のことを「しわす」といいますが、もともと、十二月のこの時期のことを「シハス」と呼称していたようです。「十二月には沫雪降ると知らねかも梅の花咲く含めらずして」と万葉集にあり、この頃にはすでにこの月のことを「シハス」と呼んでいたことがわかります。日本書紀には「十有二月」と書いて「シハス」と書いてあります。この「シハス」の語源は今のところよくわかっていません。

諸説あるのですが、少なくとも「師走」という漢字は、近代になってつけられたものであるようです。実際に「師走」という表記は元禄時代頃から使われており、ちょうど江戸の文学が最盛期であったときに、言葉遊び的に

的に世相を表現したものであろうと考えられています。

現在、有力である説は、「年果つ」(一年が果てる、要するに一年が終わる)で「トシハツ」、または「四極」(四季が極まる、要するに四季が果てる)で「シハツ」、または「為果つ」(なすことが果てる、要するに今年一年でやるべきことが終わる)で「シハツ」という単語が語源ではないかといわれているのです。

要するに、一年の終わり、または四季の終わり、または為すべきことの終わり、ということ、この呼称が使われていたのではないかと考えられています。よくはわかりませんが、たぶん、この三つのすべてが「シワス」といわれたことの語源ではないでしょうか。

「終わる」という漢字を使わなかったのですが、このことを少し考えてみましょう。 「果てる」というのは、「一定期間続いていたことが終わる」ということで、終わりとすると、そこですべてが終わってしまうという感じで、続きがないということになります。果てるという単語は、一度終わってもう一度次につながるという意味があるのです。

植物が育った時の一つの終わりは「果物」です。まさに、植物の最盛期が「花と葉」であるとする、その一連のつながりの終わりが「果てた物」要するに、「果物」になるのです。だから、一年で植物そのものの寿命が終わってしまう稲などに関しては、「果物」とは呼ばず、多年草または多年樹木の実を「果物」と呼ぶのです。

一年も、そこで終わってしまうのではありません。当然に来年を良い年で迎えないといけないのです。そういう意味を込めて次の一年につながるという意味で、「一年が終わる」ではなく「一年が果てる」という言い方をしていたのです。このようになったのは、「ハテル」という音が「ハツ」要するに「初」や「発」という音と似ているということと無縁ではないのではないかと考えられています。

新たな年の「初」まり、新たな年の「出発」の前に、「ハツル」という言葉を使うのです。これは、我々が宴会が終わるときに「終わり」と言わず「お開き」という単語を使うことと似ているのではないのでしょうか。ある意味で「ハツル」ことは、無事に一仕事終えたという意味であり、次の期間の始まり、新たな門出の直前という意味で「めでたい」という感覚を持っているのです。



お詫び

十一月十五日号は休刊しました。お詫びいたします。

宇智郡 狛犬めぐり
西河内町 多賀神社

住川町の龍智神社、東阿田町の八幡神社、西阿田町の御霊神社の狛犬とよく似ています。



多賀神社の狛犬は明治四年（一八七

一）、東阿田は明治二十九年、西阿田

は明治三十八年（住川は不詳）に奉納

されており、市全体から見れば距離的

にも近いことから、同じ石工による製

作かもしれません。

耳は羊の角のよ

うに丸く曲がって

います。耳ではな

く頭部の毛とも考えられます。

阿田の二社と違うのは、この耳にあ

たる部分に大きな穴がないことです。

阿田の二社には貫通した穴がありま

す。住川は穴がありますが貫通してい

ません。

神道七福神めぐりに
参加しませんか

五條文化博物館では、一月十五日

（土）に、市内の神社を巡る神道版の

七福神めぐりバスツアーを実施しま

す。七福神は一般には、恵比寿天、大

黒天、毘沙門天、弁才天、福祿寿、寿

老人、布袋尊といわれています。これ

らの神々を神道の神々に置き換える

とどんな神々となるのでしょうか。

実施日 令和四年一月十五日（土）

雨天決行 積雪・凍結の場合

は中止

時間 午後一時～四時

服装等 山道を五分ほど登る所もあり

ますので歩く服装や靴でお

越してください

持ち物 飲料水 雨具

定員 高校生以上 十一名（先着）

参加費 五〇〇円

申込 〇七四七（三〇）四七一六

としこしのおおほらえ
年越大祓・除夜祭を
齋行します

大祓は六月（夏

越大祓）と十二月

の半年に一度行わ

れます。

この半年に知ら

ず知らずのうちに

身に付いた罪穢（

けがれ）を祓い、心身ともにリフレッ

シュします。特に年越大祓は人形に罪

穢れを遷して厄を祓い、新年にむけて

活力を甦らせるための神事です。

日時 十二月三十一日

午後三時～

拝殿にて当日の午後二時四

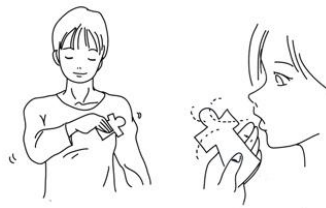
十五分頃から受け付けます

初穂料 一人または一家族三〇〇円

御神札は一族に一体授与

神事 人形による除厄

参列者の健康長寿祈願



八百万の神々

あしなづちのかみ てなづちのかみ
足名椎神・手名椎神

足名椎神・手名椎神は、八岐大蛇退

治の神話に、老夫婦で櫛名田比売の親

として登場します。

老夫婦はオオヤマツミの子で、出雲

国の肥河の上流、鳥髪（現、奥出雲町

鳥上）に住んでいました。八人の娘が

いましたが、毎年、八岐大蛇がやって

来て娘を食べてしまい、最後に残った

末娘の櫛名田比売を食べべにやって来

る寸前でした。

足名椎神・手名椎神は素戔嗚尊の指

示に従い大蛇退治のために八つの門

を作り、それぞれに濃い酒の入った桶

を準備しました。

素戔嗚尊が八岐大蛇を退治した後、

須賀の地に宮殿を建てると足名椎神

を呼び、宮の首長に任じて稲田宮主須

賀之八耳神の名を与えました。

日本書紀では脚摩乳・手摩乳と表記

しています。

五條十八景を訪ねて

第七景 「湯川遠村」

湯川は 古より 見名存す
 相望めば 微茫 烟靄昏し
 草樹 千家 時に隠見す
 馬頭先ず 問ふ 杏花の村

湯川は昔から有名な村里である。遠く村里を望むと、かすかにけむる靄の中にうるんでいて草や木々、家々の姿が時々見え隠れしている。私は馬を駆って杏の花の咲く美しい村を訪ねる。

湯川は西吉野町湯川であると思わ



れます。

西吉野村史には、湯川の地名伝説が記されています。

「昔この土地に湯が湧き、湯川の地名がおこった。現在も小字に湯壺という所がある。(湯壺は今は赤松領だが昔は湯川領だった)ところがある時、馬のわらじを洗ってから湧出が止まり、その湯は有馬に飛んでしまった」

いつの頃の伝承かは分かりませんが、当時も有馬温泉が有名であったことが分かり、有馬の湯と同等の湯が湧いていたということでしょう。

湯川には、阿弥陀堂があり、本尊の阿弥陀如来像は丈六(約四・八



阿弥陀堂

五m)の木彫座像で、国の重要文化財に指定されています。胎内に墨書があり、嘉応二年(一一七〇)、仏忍仏師の作と判明しています。

新嘗祭を斎行しました

十一月二十三日、本社新嘗祭を斎行しました。当日は風が強く寒い日となりましたが、多くの役員の方の参列を得て盛大に行うことができました。

終了後、例年なら社務所で行う直会中止でしたが、新型コロナウイルスの新規感染者数が極端に減ったこともあり、新米で醸造された白酒で乾杯しました。

御垣内にあるモミジがきれいに紅葉し、また境内社の稲荷神社鳥居前のモミジも紅く染まり、祭典を祝うかのようでした。



まさかの

全世界のオリックスバファローズファンの皆さん、優勝おめでとうございませう。

いやあ、万年Bクラスのチームがやってくれました。毎年、優勝するぞと言いつつ、今年も無理やるなあと、ファンにも負け癖がついていた二十五年間だったのかもしれませんが、リーグ終盤はロッテに勢いがあり、最後は、やっぱりなあとという結果に終わるのではと思っていただけに、まさかの優勝でした。

悲願の日本一はなりませんでしたが、日本シリーズは毎試合接戦で、手に汗握る好ゲームの連続でした。ただ、接戦では采配ミスや選手の失策、投手の四死球や暴投などが負けにつながります。日本一になるには、まだまだ課題があるということも痛感させられた日本シリーズでした。

Instagram
@goryohongu



Twitter
@goryohongu



#御霊本宮 #goryohongu を付けて投稿してください。

公式ホームページ

<http://goryojinja.or.jp>

日本書紀にみる

十二代 景行天皇（七）

冬十月十三日、日本武尊を遣わして、熊襲を討たせました。このとき、年は十六歳でした。

日本武尊は、「弓の上手な者をつれて行きたいと思う。どこかに名人はいないか」と言われました。ある人が言いました。「美濃国に名人がいます。弟彦公といえます」

そこで日本武尊は、葛城の人である宮戸彦を遣わして、弟彦公を召されました。弟彦公は、ついでに石占横立、尾張の田子稻置、乳近稻置を率いてやってきました。そして日本武尊のお供をしました。

十二月、熊襲の国に到着し、地形や人の暮らしを見ました。そのとき、熊襲に魁帥という者がいて、名は取石鹿文、または川上泉帥といました。一族を残らず集めて、建物の新築祝いをしようとしていました。

日本武尊は童女（少女）のように垂らし髪にして、梟帥の宴会のときをうかがいました。剣を衣の中に隠して、梟帥の酒宴の室に入り、女たちの中に混じりました。

梟帥はその童女の容姿が良いのを賞めて、手をとって同席させていました。そして、盃をあげて飲ませ、戯れ弄んだ。夜がふけ、酒宴の人もまばらになりました。

梟帥もまた酒の酔いがまわっていました。そこで日本武尊は、衣の中の剣を取り出して梟帥の胸を刺しました。死ぬ前に梟帥は頭を下げて言いました。「しばらくお待ち下さい。申し上げます」

日本武尊は剣を留めて待たれた。

梟帥は、「あなたはどなたでいらつしやいますか」と尋ねた。大和武尊は答えて、「自分は景行天皇の子である。名は日本童男という」

梟帥は「私は国中での強力の者です。それで世の人は私の威力を恐れて従わ

ない者はありません。私は多くの武人に会いましたが、皇子のような人は始めてです。それで卑しい者の卑しい口からですが、尊号を差し上げたのですが、お許し頂けましようか」と言いました。

大和武尊は、「許そう」と言いました。そこで、「これ以後、皇子を名づけて、日本武皇子と申し上げたい」と言いました。言葉が終ると尊は梟帥の胸を刺して殺しました。

それで今に至るまで、日本武尊と褒めて言うのは、この謂れによるものです。

その後、弟彦らを遣わして、すべてその仲間を斬らせました。残る者はありませんでした。

さらに、海路を倭の方に向かわれ、吉備に行き、穴海を渡りました。そこに悪い神がいたので、これを殺しました。また難波に至る頃に、柏渡の悪い神も殺しました。

（次号につづく）

あし(アシ)

葦邊ゆく 鴨の羽がひに 霜降りて
寒き夕べは 大和し思ほゆ

志貴皇子（一一六四）

志貴皇子が文武

天皇の難波行幸に
随行したときの歌
です。「葦の生えた



水辺を行く鴨の羽
に霜が降って、こ
んな寒い夕暮れには大和のことを思い
ます。」

「羽交い」は、鳥の左右の羽が重なり合ったところをいい、背中のことです。

志貴皇子たちが訪れたこの時期にはすでに京は大和の明日香を経て藤原京に遷っていました。遠い難波の地にあつて心も身体も凍えて消えてしまいそうな不安を、京にいる人を想って拭い去ろうとしたのでしょうか。